



自然の解説者

春季号 [第31号] 2011年4月18日

NPO 法人
ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒375-0011 藤岡市岡之郷 1179-3
櫻井昭寛 方
電話・Fax 0274-42-2726
<http://orange.zero.jp/asakurai.oak/>
編集：総務・企画部会

平成23年度を迎えるにあたって

NPO 法人ぐんま緑のインタープリター協会
理事長 亀井 健一

当協会は平成15年に創立し、今年度で9年目を迎えることになりました。組織として安定成長期に入ったと考えておりますが、現状に甘んずることなく、NPO法人にふさわしい、よりよい活動ができるようにと祈念しております。また、会の運営などについて提言などを寄せていただければ大変ありがたいと思います。

会の活動は、総務・企画、普及、受託協力、緑のインプリの森の4部会と、事務局とで運営をしております。また、県の事業であるフォレストリースクール、全国育樹祭などにも協力してきました。そして、前橋市教育委員会の青少年課と協会が協力して赤城山における自然体験活動のフィールドマップと活動展開案を作成したこと、懸案の当協会のホームページを立ち上げたことも報告しておきます。

平成22年度の事業報告を見ていただくと分かるように、協会の活動内容は多岐にわたっていますが、おおむね目標とする成果を上げることができたと思っております。この成果はひとえに会員の皆様が熱心に取り組まれた結果であり、心より感謝申し上げます。

今年度新たに上げる活動目標は、サンデンフォレスト赤城事業所内の「室沢交流の森」の森林整備、自己啓発推進のための「自主研究会」の設置・運営への支援、「赤城山の自然保護活動推進協議会」への協力などです。

ところで、昨年日本で開催された生物多様性条約締約国会議（COP10）を契機に、生物多様性の保全が注目されています。裏を返せば、今その点が危機にあることを示しています。それについて、国は3つの危機を挙げています。第1の危機は開発などによって生息・生育地の減少や環境の悪化が起こっていること。第2の危機は自然に対する人の働きかけが減少し、里山などが放置されて荒廃し多くの問題が起こっていること。第3の危機は人が外来種などを持ち込むことにより生態系の攪乱が起こっていることです。また、本年は国連が定めた国際森林年です。国連では、森林の持続可能な経営、保全、持続可能な開発を強化することについて認識を高めるよう各国は努力すべきとしています。

当協会の活動は、これらの諸問題の改善に貢献していることはいまでもないと思うので、引き続き同じ方向で努力をしてゆきたいと考えております。

終わりに、当協会の発展と会員の皆様のご活躍を祈念し、新年度を迎えてのご挨拶といたします。

平成23年度 ぐんま緑のインタープリター協会 第9回通常総会

4月10日(日)群馬県生涯学習センターにおいて協会員104名が参加(本人出席57名、委任状出席47名)して総会が開催されました。

亀井理事長より国際森林年という節目の年に、協会目的の「人と自然の共生・循環型社会の実現」に不可欠な「森林」について県民の理解を深めるための普及活動に一層努めるとの決意の挨拶がありました。

来賓としてご出席いただいた県環境森林部緑化推進課高井光夫次長および前橋市教育委員会青木博指導部長よりご祝辞をいただきました。

平成22年度事業並びに平成23年度事業案は原案どおり全会一致で承認決定されました。

第3号議案の副理事長辞任に伴う後任副理事長と組織体制は次の通りです。

組織体制

理事長	亀井 健一				
副理事長	別井 幸夫 (新任)				
総務・企画部会	総務担当理事	櫻井 昭寛	普及部会	担当理事	住谷 収
	企画担当理事	宇多川 紘	受託協力部会	担当理事	吉田 幸一
緑のインプリの森部会	担当理事	桐生 正作			



<協会活動のトピック>**平成 22 年度「自然の解説者養成講座」修了**

当協会が主催する 22 年度の「自然の解説者養成講座」は平成 22 年 4 月 25 日(日)の開講より平成 23 年 1 月 16 日(日)の野鳥の講習までの 14 回の講座を修了し、2 月 6 日(日)県緑化推進課の高井光夫次長を来賓を迎えて修了式を行いました。受講生 26 名のうち 20 名の方が 10 講座以上を修了し、亀井健一理事長より修了証が交付されました。また昨年度未修了で本年度補講された方 1 名も修了されました。

本年度終了されなかった 6 名の方々も平成 23 年度「自然の解説者養成講座」で補講され修了されることを期待いたします。



第 10 講座 巨樹古木ツアー

修了者(敬称略)(9期生)

赤津喜八郎	飯塚正司	石田智也	市毛克哉	大澤ひかる			
岡田 茂	鎌塚太郎	北沢園子	栗原 繁	小林英樹	小山 宏	坂井康良	坂本義則
須藤貴弘	田中和夫	長井 功	中島也裕	前田朝子	村岡利克	渡辺俊基	勝山純仁

<活動報告>**群馬の気象 研修会** 1 月 23 日(日) 第 5 回会員資質向上研修 当協会主催
(総務・企画部会)

前橋市総合福祉会館において、気象予報士で協会の櫻井昭寛講師による「群馬の気象」の研修会を行いました。

協会員 35 名が参加し、「雷と空っ風」の実例など春夏秋冬の群馬の気象の特徴を学びました。気象衛星写真や雨の強度分布の変化の連続再生など、事例を挙げながらの分かりやすい説明が好評でした。

**群馬の野生動物と人との共生 公開講演会** 2 月 13 日(日) 第 6 回会員資質向上研修 当協会主催(総務・企画部会)

県庁昭和庁舎 3 階会議室にて、日本獣医生命科学大学野生動物教室准教授羽山伸一先生を講師に迎え、「群馬の野生動物と人との共生」についての公開講演会を行いました。一般 14 名、協会員 27 名の計 41 名がイノシシやシカなどの被害や人との境界の設置の必要性など、多様な野生動物問題について熱心に聴き入っていました。

**地形と地形図の読み方 研修会** 3 月 6 日(日) 第 7 回会員資質向上研修
当協会主催(総務・企画部会)

伊香保憩いの森 森林学習センターにおいて協会員 16 名が参加し、協会員の関端孝雄講師による「地形図の読み方」の研修会を行いました。

午前には、地形図の記号の意味、等高線の概念等の講義の後、地形図の読み方の練習を行いました。午後は、地形図の活用、特にシルバコンパスの使い方について学んだ後、練習として地形図に磁北線を引き、方位角の測定、現在地の確認等の練習問題に取り組みました。苦勞をした人も居りましたが、最後は皆さん理解されたようです。

今後、山座同定などへの活用が期待されます。

**赤谷プロジェクトの目的と現状 公開講演会** 4 月 10 日(日) 平成 23 年度 第 1 回会員資質向上研修
当協会主催(総務・企画部会)

「赤谷プロジェクトの目的と現状」と題し、赤谷森林環境保全ふれあいセンター所長の鈴木綾子氏を講師に迎え、群馬県生涯学習センター3階視聴覚室において、上毛新聞社後援の公開講演会を開催しました。一般 16 名、協会員 54 名の計 70 名が熱心に聞き入る中、自然をどう捉えるか、生物多様性の復元と持続的な地域づくりをどう進めるのか等、赤谷プロジェクトの経緯から現状の問題点について解決への取り組みと成果が示されました。

この時節の花や木々の目覚めを感じながら、緑豊かな郷土に思いを強くした研修会でした。



緑の窓



群馬の野生動物と人との共生

日本獣医生命科学大学 獣医学部
野生動物教室准教授 羽山 伸一

平成23年2月13日(日) 群馬県庁昭和庁舎35会議室で
行われた研修会より

野生動物の問題は、絶滅危惧種問題、被害問題、外来種問題と多様です。ツシマヤマネコなどレッドリスト（絶滅の恐れのある野生生物の種のリスト）に指定されている生物の保護に力が入れられていますが、一方で増えすぎた野生動物による被害も近年増大しています。

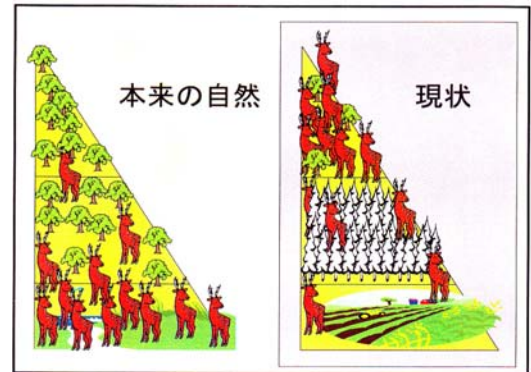
群馬県でもイノシシやシカなど野生動物による被害は農産物で4億円近く、林業では4億円を超えています。被害を防ぐためには、森林を整備して野生動物が安心して住める生息環境を整えることと、人と動物の境界を作ることが必要です。林や耕作放棄地の草刈などをして見透しを良くすると、動物は人の動きを見て寄ってこなくなります。また動物が越えられない柵や、電気柵も有効です。

さらに、増えすぎた動物に対しては捕獲を行うなど個体管理が必要になります。現在、狩猟者の高齢化などで狩猟による捕獲が減ったことで野生動物が増えています。

森林が荒れると野生動物は山の高いところや、平地の耕作地に追いやられます。森林は動物に木の実などの餌や、隠れる場所を与えるばかりでなく、土壌保全や水源涵養など多様な機能を有しています。この森林を整備することが人と野生動物との共生にとって不可欠となっています。

私たちは森林の下草刈などいろいろな機会を通じて森林の整備に協力してゆきたいと思います。

また、アライグマなどの特定外来生物については、まずどこにいるのかの生息情報が大切ですので、その提供にも力を注いで行きたいと思います。



群馬の渓谷林

当協会理事長 亀井 健一

渓谷はどんな環境か

渓谷は水が豊富にある点は湿地と同じですが、表流水、地下水とも流動しているので、水が滞留する湿地とは異なり、土壌中や水中の酸素が多い環境です。また渓谷に落ち込む斜面からは、落ち葉や土砂が供給され、土壌が厚く栄養分も豊富です。ただ、地形的にくぼんでいるので太陽光は多くありません。このような特徴を反映して、渓谷特有の植生になり、渓谷林（溪畔林）が生まれています。サワグルミやトチノキなど天を衝くような高大木が多いのは、水分、栄養分が多いことや、光を求めて伸びるからと考えられます。また、水分過剰や暗い環境をきらうササ類は少ないです。

渓谷林の植生

渓谷林によく見られる植物は、高木層にはサワグルミ、トチノキ、カツラ、オニイタヤ、ケヤキ、一部の渓谷にはシオジ、ヤチダモなどが、亜高木層にはイロハモミジ、イタヤカエデ、チドリノキ、サワシバ、キハダ、フサザクラなどが、低木層にはオオバアサガラ、コクサギ、アブラチャン、ウリノキ、タマアジサイ、ヤマアジサイなどが、草本層にはシダ類などが生えています。

シオジやヤチダモの分布は限定的

シオジの分布は多野山地、根本山、袈裟丸山などに、ヤチダモの分布は尾瀬、利根川源流部、武尊山（玉原高原など）などに限られます。なお、本県のシオジは分布の北限とされています。上野村檜原の北沢にあるシオジ原生林は国の天然記念物に指定されています。また、関東森林管理局は植物群落保護林に指定しています。

シオジの観察には、桐生の根本沢がよいでしょう。不死熊橋付近の登山口から沢沿いに、30分ほど上流方向に進むと、シオジ林に着きます。ヤチダモは玉原で見ることができます。センターハウスわきから玉原湿原入口に向かって10分ほど歩いたところに野鳥の看板がありますが、この看板付近にヤチダモがサワグルミと並んで生えています。ここにはキハダもあります。



根本沢のシオジ

<へびの話>**第6回****へびの感覚**

財団法人 日本蛇族学術研究所長・医学博士 鳥羽通久氏

へびはよく、舌をチロチロと出し入れしている。これは匂いを集めているのである。へびの嗅覚は鋭く、二重になっていて、人と同じように鼻に入ってくる空気中の匂いと、もう1つ口蓋の部分にあるヤコブソン器官で感じる事ができる。舌の先は2つに分かれているが、これは1対あるヤコブソン器官の開口部に対応している。舌の先は、空気中の匂いだけでなく、物に付着している匂いを拾う事もできる。へびが舌を出し入れするのは、情報収集をしていると思えばよい。



ガラガラヘビの舌出し

へびの感覚で鈍いのは聴覚である。へびの顔をよく見ると、耳が見つからない。実はへびには、鼓膜と外耳が無くなっている。だからといって、聴覚がないわけではなく、耳の骨があごの骨につながっているために、低周波の音を骨伝導で聞く事ができる。人が近づいた時にへびが逃げるのは、地面の震動を聞き取っていると考えられる。

<協会の声>**協会員一年生**

八期生 普及部員 大島純子

私が子育て真っ最中の頃、室田の川原で子供たちとバーベキューをして遊びました。昆虫を追いかけたり、メダカすくいをさせて遊んだ時「川はどうしてあるの?」「この花はなんというの?」「あの鳥はどこへ行くの?」等の質問攻めに即答できない時がありました。私は自然の体験は人一倍していましたが、教えられる正確な自然の知識は貧弱なものでした。あれから25年が過ぎた今、自然と向かいあう環境が整って、楽しく勉強している状態の協会員になって、約1年が経ようとしています。この1年間は講師の方々や友人にも恵まれて、有意義な講演会・講習会と実技・技術でした。昨年10月の育樹祭行事では、前日の養老猛氏の講演会や、皇太子様御来場の当日に、協会員有志の皆さんと一緒に設営から参加できて、思い出と記念になりました。そのほか、アケビや竹の籠編講習などは貴重な体験で、その作品は誇らしげに玄関に飾って、見るたびに私の顔はほころびます。なんとといってもこの一年間の最大の物事は、関係者の皆様の御指導の下に、第9期「自然の解説者養成講座」をトラブルもクレームも乗り越えて、普及部員として担当した事です。本年度も昨年同様に、皆様の御指導御協力を宜しく願います。



いつの日か、私の家の前を通る老若男女のハイカーたちに「私は自然の解説者です」と、胸を張って言えるようになれば、こんな嬉しい事は無いと思っています。

<協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
平成23年4月23日(土)	室沢交流の森整備 (サンデンフォレスト内)	室沢交流の森
平成23年5月7日(土)	研修2 小根山森林公園自然観察会	小根山森林公園
平成23年5月14日(土)	室沢交流の森整備 (サンデンフォレスト内)	室沢交流の森
平成23年5月28日(土)	室沢交流の森整備 (サンデンフォレスト内)	室沢交流の森
平成23年6月12日(日)	親しみの森・インプリの森整備	親しみの森・インプリの森
平成23年6月19日(日)	研修3 自然体験活動指導研修会	赤城山
平成23年6月25日(土)	室沢交流の森整備 (サンデンフォレスト内)	室沢交流の森
平成23年6月26日(日)	まえばし地域づくり推進大会	前橋市総合福祉会館

<編集後記>

3月11日(金)午後2時46分マグニチュード9.0という未曾有の東日本大震災が発生しました。東北地方太平洋沿岸が大津波により壊滅的な被害を受けましたが、人々の努力と援助で少しずつ復興して来ています。私たちにできることは早く普通の生活に戻って、できる援助をしていくことです。総会では25,678円の義援金が集まりましたので、上毛新聞社を通じて被災者に送りました。こんな時だからこそ協会活動もしっかりやりたいと思います。

(Aki)